

アベノミクス・消費増税への影響

WEBアンケート調査

報告書

2014年1月

目 次

I. WEBアンケート	1
1. 調査概要	1
2. 調査結果（概要）	2
3. 調査結果（詳細）	4
(1) 属性	4
1) 性別	4
2) 年齢	4
3) 居住地域	5
4) 職業	6
(2) アベノミクスの波及調査結果	7
1) アベノミクスによる景気の受け止め方	7
① 全体	7
② 年齢別	7
③ 職業別	8
2) アベノミクスによるプラス効果	9
① 全体	9
② 年齢別	9
③ 職業別	10
3) アベノミクスのマイナス効果	11
① 全体	11
② 年齢別	11
③ 職業別	12
4) アベノミクスにより所得が上昇した分の使途	13
① 全体	13
② 年齢別	14
5) アベノミクスによる今後の景気動向	15
① 全体	15
② 年齢別	15
③ 職業別	16
(3) 消費増税に関する調査	17
1) 消費増税前の商品・サービスの駆け込み購入の状況	17
① 全体	17
② 年齢別	17
2) 消費増税後の消費行動について	18

I. WEBアンケート

1. 調査概要

(1) 調査の目的

県民を対象に景況感や消費動向に関する意識について調査するとともに、県内におけるアベノミクスの波及状況や消費増税に対する受け止め方とその影響を把握するための参考とする。

(2) 調査の対象

県内住民 1,000 名（男性：500 名、女性：500 名）

属性	サンプル数	
	男	女
20 歳代	100	100
30 歳代	100	100
40 歳代	100	100
50 歳代	100	100
60 歳以上	100	100
合計	500	500

(3) 調査方法

WEBアンケートによる実施

(4) 調査時期

2013 年 12 月 10 日～12 月 13 日

(5) 調査票の回答状況

調査票回答件数 1,000 件

2. 調査結果（概要）

○アベノミクスの波及状況

- ・アベノミクスに対する景気への影響の受け止め方をみると、「横ばい」が 53.9%と半数強を占めた。『改善』〈「改善」(2.5%) + 「やや改善」(27.4%)〉と回答した人は 29.9%で、『悪化』〈「やや悪化」(9.0%) + 「悪化」(7.2%)〉と回答した人の 16.2%を大きく上回った。
- ・年齢別にみると、すべての年代で「横ばい」が概ね半数以上と最も多く、回答に占める割合が最も高かった「20 歳代」は 63.0%だった。
- ・『改善』の回答が多かったのは、「40 歳代」(33.5%) や「50 歳代」(33.5%)、「60 歳以上」(32.0%) と年齢層の高い人だった。
- ・職業別にみると、すべての職業で「横ばい」が最も多く、回答に対する割合が最も高かった「会社勤務」では 63.0%に上った。

○アベノミクスによるプラス効果

- ・アベノミクスによるプラス効果を実感する場面をみると、「プラスの実感はない」が 67.9%で突出して多かった。次いで、「景気に関するマスコミや周囲の声」(16.5%)、「金融商品の運用益が出た」(11.4%) の順であった。
- ・年齢別には、すべての年代で「プラスの実感はない」が 6 割以上を占め、回答に占める割合が最も高かった「20 歳代」では 79.5%に上った。
- ・「金融商品の運用益が出た」という回答は、年齢層が高いほど回答数が多く、回答に占める割合が最も高かった「60 歳以上」では 17.5%であった。
- ・職業別には、すべての職業で「プラスの実感はない」が突出して多く、回答に占める割合が最も高かった「学生」では 80.6%に上った。

○アベノミクスによるマイナス効果

- ・アベノミクスによるマイナス効果を実感する場面をみると、「円安の影響で購入価格が上昇した」(57.7%) が最も多く、次いで「電気料金が上昇した」(51.4%)、「マイナスの実感はない」(23.8%) の順であった。
- ・年齢別には、すべての年代で「円安の影響で購入価格が上昇した」や「電気料金が上昇した」といった生活費負担増を挙げる回答が突出して多かった。特に「50 歳代」では 71.0%・59.5%、「60 歳以上」では 69.5%・61.5%と高かった。
- ・職業別には、すべての職業で「円安の影響で購入価格が上昇した」が最も多く、回答に占める割合が最も高かった「専業主婦」では 59.0%を占めた。「電気料金が上昇した」の回答割合も高かった。

○アベノミクスにより所得が上昇した分の使途

- ・アベノミクスにより所得が上昇した分の資金使途をみると、最も多かったのが「貯金」(54.0%)で、次いで「趣味」(29.4%)、「外食」(23.3%)、「レジャーや旅行」(22.7%)の順であった。
- ・年齢別には、すべての年代で「貯金」の回答が最も多く、回答に占める割合が最も高かった「20歳代」は68.4%に上った。

○アベノミクスによる今後の景気動向

- ・アベノミクスによる今後の景気動向をみると、「横ばい」(43.3%)が最も多く、次いで『回復する』(「回復に向かっていく」(3.3%) + 「やや回復に向かっていく」(26.6%))が29.9%、『悪化する』(「やや悪化する」(16.8%) + 「悪化する」(10.0%))が26.8%であった。
- ・年齢別には、すべての年代で「横ばい」が最も多かった。『回復する』と『悪化する』を比べると、「60歳以上」を除くすべての年代で『回復する』が『悪化する』を上回った。
- ・職業別には、「自営業」を除くすべての職業で「横ばい」が最も多かった。「自営業」で最も多かった回答は、「やや悪化する」で37.5%だった。
- ・『回復する』の方が『悪化する』よりも多かったのは、「会社勤務」、「公務員・教職員・非営利団体職員」、「専業主婦」、「学生」であった。
- ・『悪化する』の方が『回復する』よりも多かったのは、「自営業」、「無職」であった。
- ・『回復する』と『悪化する』が拮抗したのは、「パート・アルバイト」であった。

○消費増税前の商品・サービスの駆け込み購入の状況等

- ・2014年4月の消費増税を意識して増税前に購入したもの(14年3月までの予定を含む)をみると、「購入予定はない」(65.1%)が突出して多かった。次いで、「車や家具などの耐久消費財」(14.4%)、「趣味」(8.2%)、「食料品」(8.1%)の順であった。
- ・消費増税後の2014年4月以降の消費動向をみると、「控える」が40.5%で最も多く、「控えない」が24.3%、「わからない」が35.2%であった。

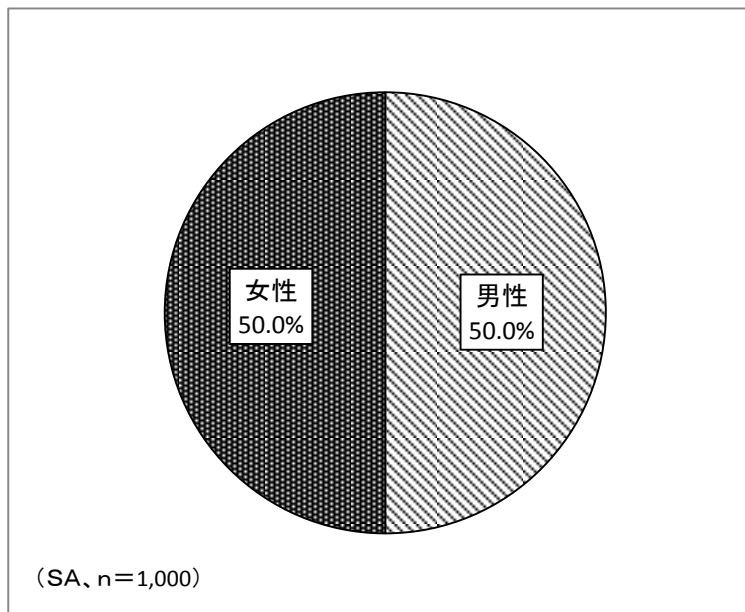
3. 調査結果（詳細）

(1) 属性

1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 50.0%、「女性」が 50.0%となるように回収した。

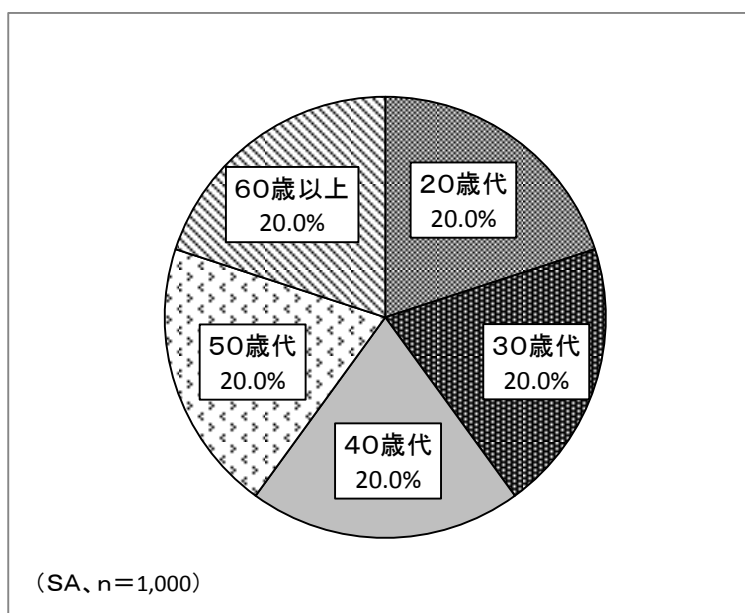
図表 1 性別



2) 年齢

回答者の年齢は、「20歳代」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」がそれぞれ 20.0%となるように回収した。

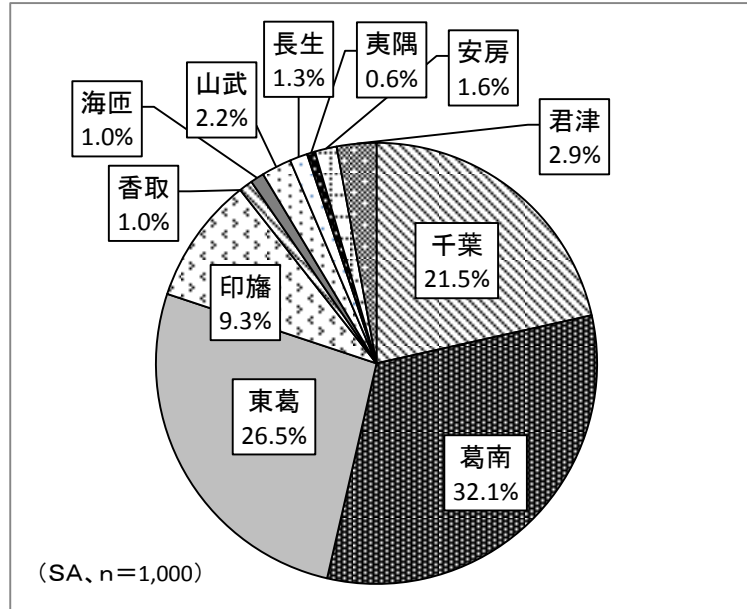
図表 2 年齢



3) 居住地域

回答者の居住地域は、「葛南」が 32.1% で最も多く、次いで「東葛」(26.5%)、「千葉」(21.5%)、「印旛」(9.3%) の順であった。

図表 3 居住地域



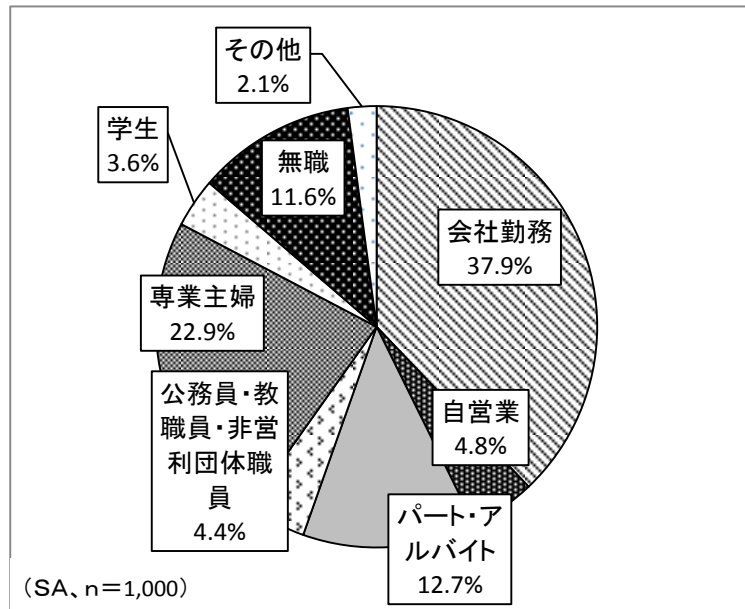
図表 4 地域別回収数

自治体名	回答数	%	自治体名	回答数	%	自治体名	回答数	%
千葉	215	21.5	香取	10	1.0	夷隅	6	0.6
千葉市	179	17.9	香取市	6	0.6	勝浦市	3	0.3
市原市	36	3.6	神崎町	2	0.2	いすみ市	1	0.1
葛南	321	32.1	多古町	1	0.1	大多喜町	1	0.1
市川市	101	10.1	東庄町	1	0.1	御宿町	1	0.1
船橋市	122	12.2	海匝	10	1.0	安房	16	1.6
習志野市	42	4.2	銚子市	2	0.2	館山市	7	0.7
八千代市	24	2.4	旭市	6	0.6	鴨川市	3	0.3
浦安市	32	3.2	匝瑳市	2	0.2	南房総市	6	0.6
東葛	265	26.5	山武	22	2.2	鋸南町	0	0.0
松戸市	93	9.3	山武市	7	0.7	君津	29	2.9
野田市	19	1.9	大網白里町	5	0.5	木更津市	16	1.6
柏市	69	6.9	九十九里町	3	0.3	君津市	7	0.7
流山市	38	3.8	芝山町	0	0.0	富津市	2	0.2
我孫子市	26	2.6	横芝光町	2	0.2	袖ヶ浦市	4	0.4
鎌ヶ谷市	20	2.0	長生	13	1.3	合計	1,000	100.0
印旛	93	9.3	茂原市	8	0.8			
成田市	9	0.9	一宮町	1	0.1			
佐倉市	31	3.1	睦沢町	1	0.1			
四街道市	13	1.3	長生村	0	0.0			
八街市	6	0.6	白子町	2	0.2			
印西市	14	1.4	長柄町	1	0.1			
白井市	8	0.8	長南町	0	0.0			
富里市	3	0.3						
酒々井町	4	0.4						
栄町	5	0.5						

4) 職業

職業は、「会社勤務」(37.9%)が最も多く、次いで「専業主婦」(22.9%)、「パート・アルバイト」(12.7%)、「無職」(11.6%)、「自営業」(4.8%)の順であった。

図表 5 職業



(2) アベノミクスの波及調査結果

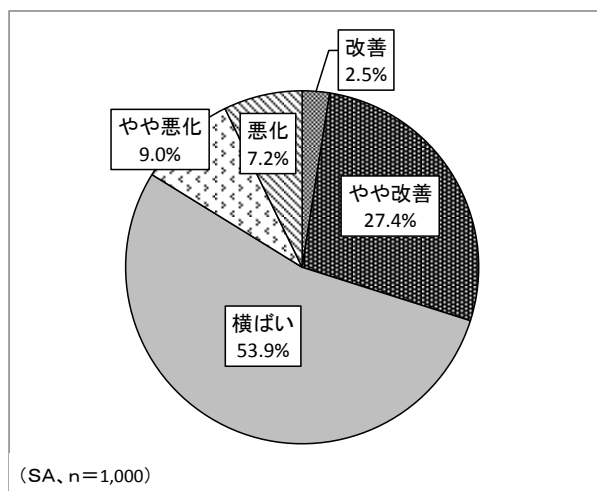
1) アベノミクスによる景気の受け止め方

① 全体

回答者のアベノミクスに対する景気の影響への受け止め方をみると、「横ばい」が53.9%と半数強を占めた。

『改善』〈「改善」(2.5%) + 「やや改善」(27.4%)〉と回答した人は29.9%で、『悪化』〈「やや悪化」(9.0%) + 「悪化」(7.2%)〉と回答した人の16.2%を大きく上回った。

図表 6 アベノミクスによる景気への影響について(全体)



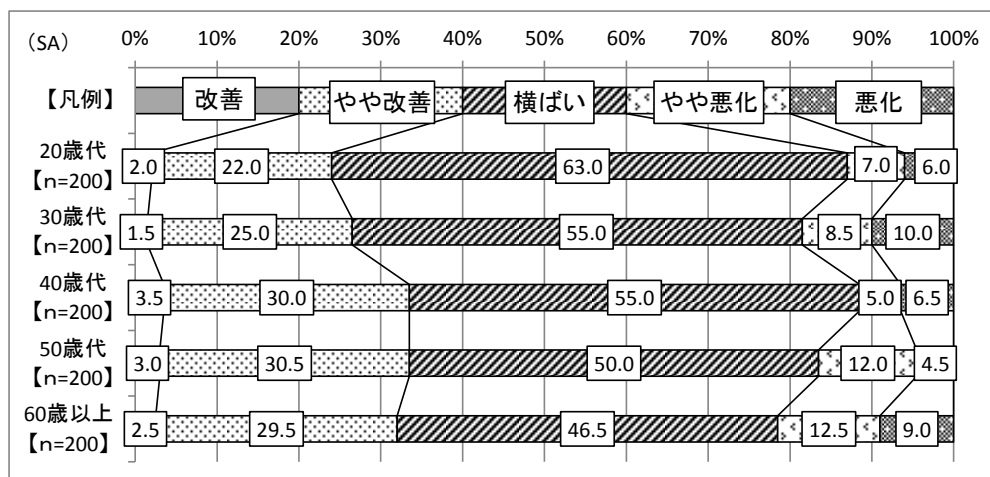
② 年齢別

年齢別にみると、すべての年代で「横ばい」が概ね半数以上と多く、回答に占める割合が最も高かった「20歳代」は63.0%だった。

『改善』の回答が多かったのは、「40歳代」(33.5%)や「50歳代」(33.5%)、「60歳以上」(32.0%)と年齢層の高い人だった。

一方、『悪化』の回答が多かったのは、「60歳以上」(21.5%)、「30歳代」(18.5%)、「50歳代」(16.5%)の順であった。

図表 7 アベノミクスによる景気への影響について(年齢別)



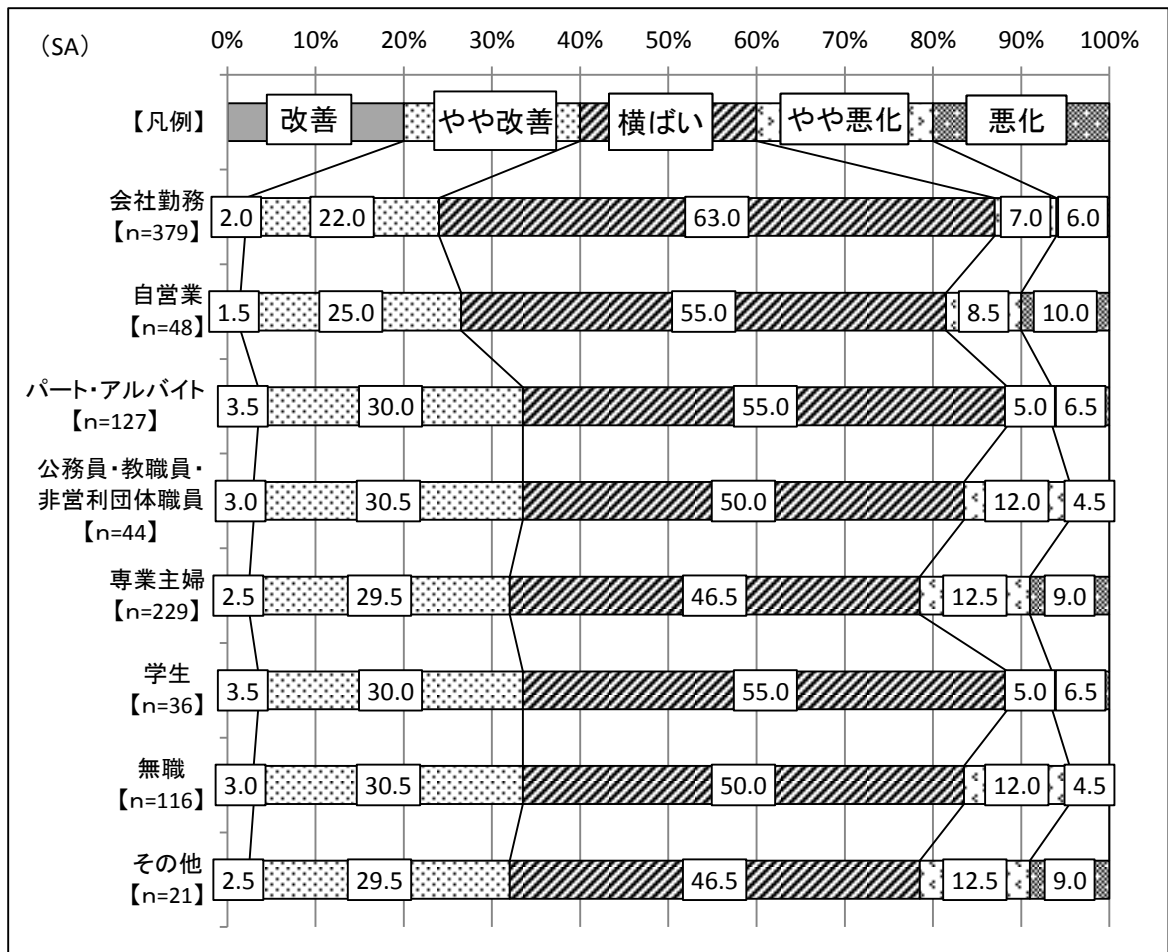
③ 職業別

職業別にみると、すべての職業で「横ばい」が最も多かった。回答に占める割合が最も多かったのは「会社勤務」の63.0%で、最も低かった「専業主婦」でも46.5%と約半数を占めた。

『改善』の回答は、多くの職業で30%以上を占めたが、「会社勤務」(24.0%)、「自営業」(26.5%)では低い水準であった。

『悪化』の回答は、「専業主婦」(21.5%)、「自営業」(18.5%)などで多かった。

図表 8 アベノミクスによる景気への影響について(職業別)



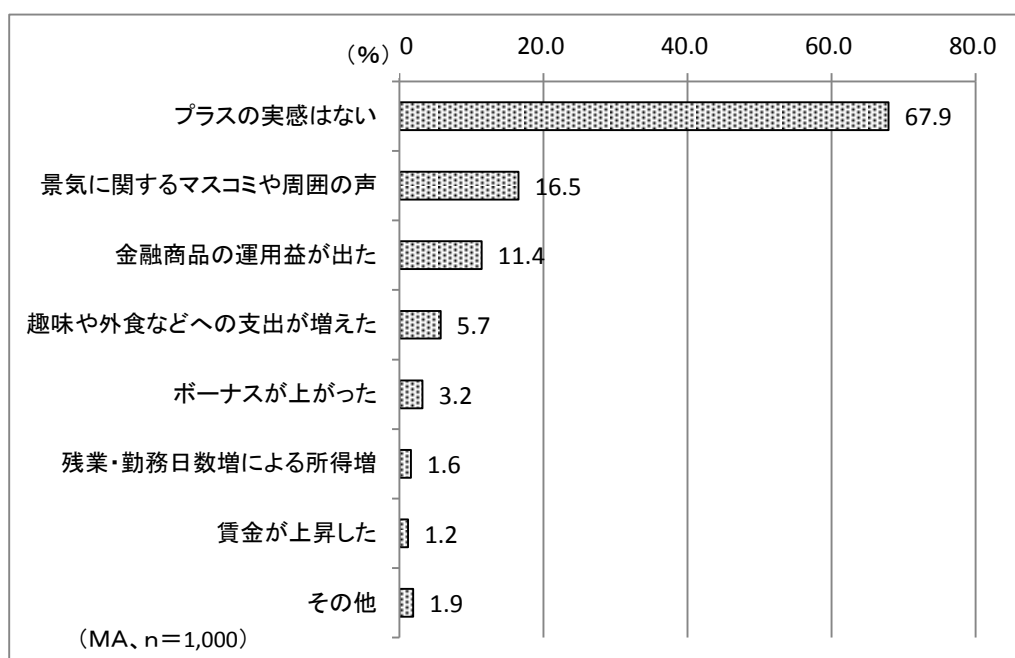
2) アベノミクスによるプラス効果

① 全体

アベノミクスによるプラス効果を実感する場面をみると、「プラスの実感はない」(67.9%)が突出して多かった。次いで、「景気に関するマスコミや周囲の声」(16.5%)、「金融商品の運用益が出た」(11.4%)、「趣味や外食などへの支出が増えた」(5.7%)、「ボーナスが上がった」(3.2%)の順であった。

賃金やボーナス、残業時間や勤務日数の増加による給与所得増でアベノミクスを実感したとする回答は、「ボーナスが上がった」(3.2%)、「残業・勤務日数増による所得増」(1.6%)、「賃金が上昇した」(1.2%)と少なかった。

図表 9 アベノミクスによるプラス効果を感じる場面【複数回答】



② 年齢別

年齢別には、すべての年代で「プラスの実感はない」が6割以上を占め、回答に占める割合が最も高かった「20歳代」では79.5%に上った。

次いで回答が多かったのは「20歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳代」では「景気に関するマスコミや周囲の声」だったが、「60歳以上」では「金融商品の運用益が出た」(17.5%)だった。

「賃金が上昇した」や「ボーナスが上がった」など給与所得の増加に関する回答は、「20歳代」(給与が上昇した：2.0%、ボーナスが上がった：4.0%)と「30歳代」(同：2.5%、同：5.5%)の若い世代で比較的多かった。

図表 10 アベノミクスによるプラス効果を感じる場面(年齢別)【複数回答】

(単位：%)

	賃金が上昇した	ボーナスが上がった	残業・勤務日数増による所得増	金融商品運用益が出た	景気に関するマスコミや周囲の声	趣味や外食などへの支出が増えた	プラスの実感はない	その他
20歳代【n=200】	2.0	4.0	1.0	4.5	10.0	5.0	79.5	0.0
30歳代【n=200】	2.5	5.5	3.5	9.0	16.0	5.0	67.0	3.0
40歳代【n=200】	0.5	3.0	2.5	11.5	20.5	5.5	66.0	0.5
50歳代【n=200】	0.5	3.0	-	14.5	19.5	5.5	65.5	1.5
60歳以上【n=200】	0.5	0.5	1.0	17.5	16.5	7.5	61.5	4.5

(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

③ 職業別

職業別には、すべての職業で「プラスの実感はない」が6割以上と突出して多く、回答に占める割合が最も高かった「学生」では80.6%に上った。

次に回答数が多かった「景気に関するマスコミや周囲の声」は、すべての職業で10%以上の回答を得ており、特に「専業主婦」(18.8%)や「会社勤務」(17.4%)などで多かった。

「金融商品の運用益が出た」と回答する人は、「公務員・教職員・非営利団体職員」(20.5%)や「自営業」(14.6%)、「無職」(13.8%)などで多かった。

図表 11 アベノミクスによるプラス効果を感じる場面(職業別)【複数回答】

(単位：%)

	賃金が上昇した	ボーナスが上がった	残業・勤務日数増による所得増	金融商品運用益が出た	景気に関するマスコミや周囲の声	趣味や外食などへの支出が増えた	プラスの実感はない	その他
会社勤務【n=379】	2.1	5.5	2.9	12.4	17.4	6.9	63.6	1.3
自営業【n=48】	0.0	0.0	2.1	14.6	10.4	2.1	70.8	6.3
パート・アルバイト【n=127】	1.6	2.4	1.6	6.3	16.5	3.9	73.2	2.4
公務員・教職員・非営利団体職員【n=44】	0.0	4.5	2.3	20.5	15.9	4.5	65.9	0.0
専業主婦【n=229】	0.4	2.2	0.4	9.6	18.8	5.2	69.9	0.4
学生【n=36】	2.8	0.0	0.0	2.8	16.7	2.8	80.6	0.0
無職【n=116】	0.0	0.9	0.0	13.8	12.1	6.0	67.2	5.2
その他【n=21】	0.0	0.0	0.0	19.0	14.3	14.3	71.4	4.8

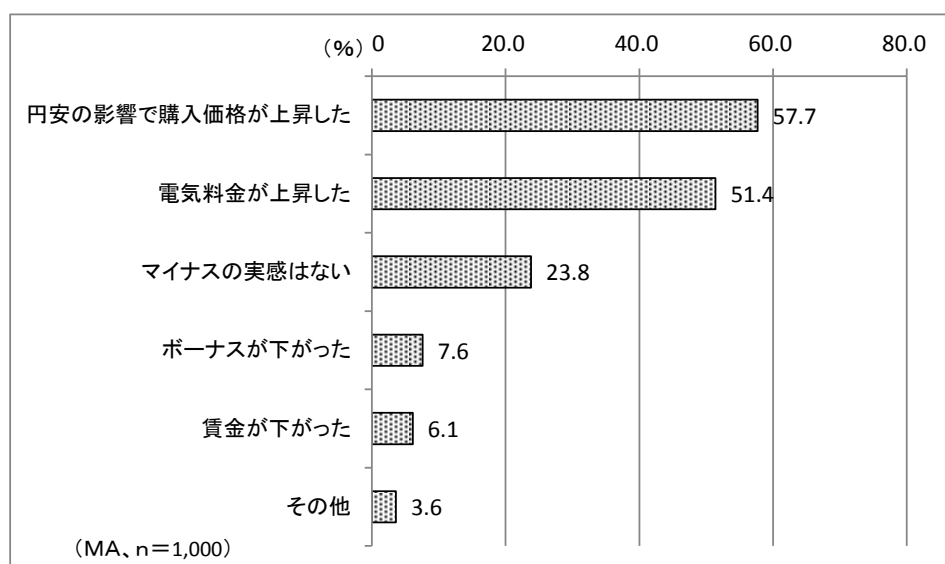
(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

3) アベノミクスのマイナス効果

① 全体

アベノミクスによるマイナス効果を実感する場面を見ると、「円安の影響で購入価格が上昇した」（57.7%）が最も多く、次いで、「電気料金が上昇した」（51.4%）、「マイナスの実感はない」（23.8%）の順であった。

図表 12 アベノミクスのマイナス効果(全体)【複数回答】



② 年齢別

年齢別には、すべての年代で「円安の影響で購入価格が上昇した」や「電気料金が上昇した」といった生活費負担増を挙げる回答が多かった。特に「50歳代」では71.0%・59.5%、「60歳以上」では69.5%・61.5%と高かった。

「マイナスの実感はない」と回答した人では、「20歳代」（41.5%）が最も多く、年齢層が高いほど回答割合は少なかった。

(単位：%)

	賃金が下がった	ボーナスが下がった	円安の影響で購入価格が上昇した	電気料金が上昇した	マイナスの実感はない	その他
20歳代 【n=200】	4.0	7.5	38.5	36.5	41.5	-
30歳代 【n=200】	8.5	9.0	52.0	43.0	29.5	3.5
40歳代 【n=200】	7.0	9.5	57.5	56.5	21.5	3.0
50歳代 【n=200】	8.0	10.0	71.0	59.5	13.5	4.0
60歳以上 【n=200】	3.0	2.0	69.5	61.5	13.0	7.5

(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

③ 職業別

職業別には、すべての職業で「円安の影響で購入価格が上昇した」が最も多く、回答に占める割合が最も高かった専業主婦では 65.5%であった。「電気料金が上昇した」の回答割合も 59.0%と高かった。

「マイナスの実感はない」が最も多かったのは「学生」の 41.7%で「電気料金が上昇した」(30.6%) よりも多かった。

「公務員・教職員・非営利団体職員」では、「賃金が下がった」(27.3%)、「ボーナスが下がった」(18.2%)の割合が他の職業に比べて突出して高かった。

図表 14 アベノミクスのマイナス効果(職業別)【複数回答】

(単位：%)

	賃金が下がった	ボーナスが下がった	円安の影響で購入価格が上昇した	電気料金が上昇した	マイナスの実感はない	その他
会社勤務 【n=379】	7.1	11.6	54.4	50.1	26.4	2.4
自営業 【n=48】	2.1	4.2	64.6	60.4	20.8	8.3
パート・アルバイト 【n=127】	7.9	4.7	57.5	49.6	22.0	3.9
公務員・教職員・非営利団体職員 【n=44】	27.3	18.2	54.5	47.7	22.7	2.3
専業主婦 【n=229】	3.5	6.1	65.5	59.0	17.5	2.2
学生 【n=36】	0.0	2.8	47.2	30.6	41.7	0.0
無職 【n=116】	1.7	0.9	54.3	46.6	25.0	7.8
その他 【n=21】	4.8	0.0	61.9	52.4	28.6	14.3

(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

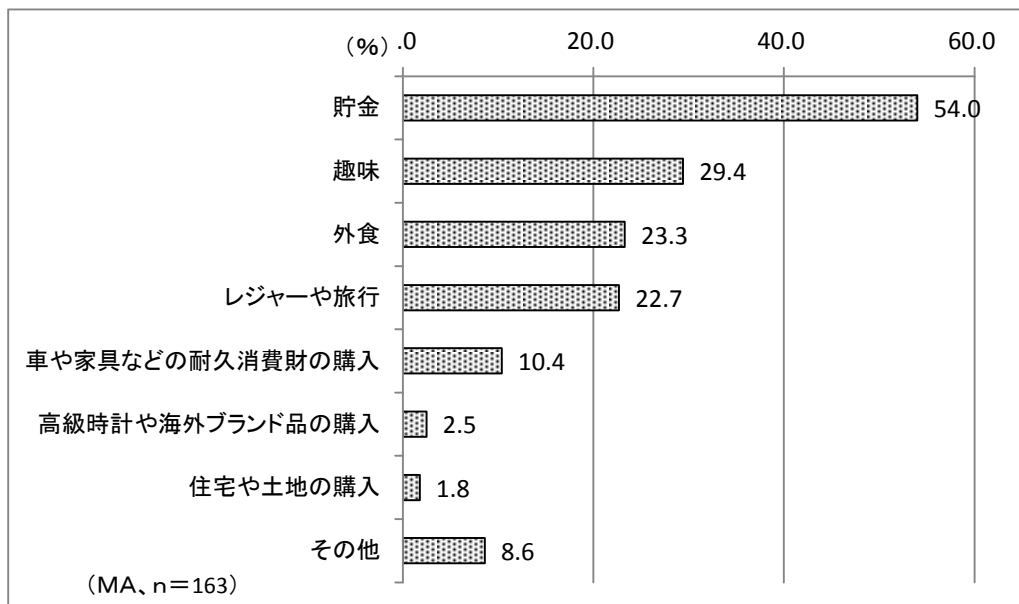
4) アベノミクスにより所得が上昇した分の使途

本問は、2) で「賃金が上昇した」、「ボーナスが上がった」、「残業・勤務日数増による所得増」、「金融商品運用益が出た」のいずれかに回答した 163 名を対象とした。

① 全体

アベノミクスにより所得が上昇した分の資金使途をみると、最も多かったのが「貯金」(54.0%)で、次いで「趣味」(29.4%)、「外食」(23.3%)、「レジャーや旅行」(22.7%)の順であった。

図表 15 アベノミクスにより所得が上昇した分の使途(全体)【複数回答】



② 年齢別

年齢別には、すべての年代で「貯金」の回答が最も多く、回答に占める割合が最も高かった「20歳代」では68.4%に上った。

次いで多いのは、20歳代が「外食」（47.4%）、30歳代が「趣味」（35.1%）、40歳代が「レジャーや旅行」（23.5%）、「趣味」（23.5%）、50歳代が「趣味」（25.7%）、60歳以上が「趣味」（34.2%）であった。

図表 16 アベノミクスにより所得が上昇した分の使途（年齢別）【複数回答】

(単位：%)

	車や家具などの耐久消費財の購入	高級時計や海外ブランド品の購入	住宅や土地の購入	レジャーや旅行	外食	趣味	貯金	その他
20歳代 【n=19】	15.8	0.0	5.3	26.3	47.4	26.3	68.4	5.3
30歳代 【n=37】	5.4	5.4	0.0	24.3	24.3	35.1	59.5	5.4
40歳代 【n=34】	8.8	5.9	2.9	23.5	20.6	23.5	52.9	11.8
50歳代 【n=35】	17.1	0.0	2.9	8.6	11.4	25.7	57.1	2.9
60歳以上 【n=38】	7.9	0.0	0.0	31.6	23.7	34.2	39.5	15.8

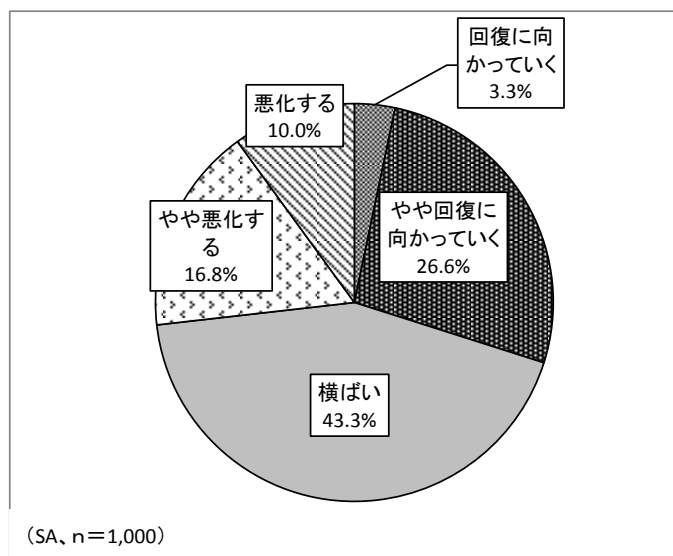
(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

5) アベノミクスによる今後の景気動向

① 全体

アベノミクスによる今後の景気動向をみると、「横ばい」（43.3%）が最も多く、次いで『回復する』〈「回復に向かっていく」（3.3%）+「やや回復に向かっていく」（26.6%）〉が 29.9%、『悪化する』〈「やや悪化する」（16.8%）+「悪化する」（10.0%）〉が 26.8%であった。

図表 17 アベノミクスによる今後の景気動向(全体)



② 年齢別

年齢別には、すべての年代で「横ばい」が最も多く、回答に占める割合が最も高かった「20歳代」では51.5%と半数を占めた。

『回復する』と『悪化する』を比べると（『回復する』:『悪化する』）、「20歳代」が26.5%:22.0%、「30歳代」が30.5%:26.0%、「40歳代」が34.0%:25.0%、「50歳代」が29.5%:27.5%、「60歳以上」が29.0%:33.5%と、「60歳以上」を除くすべての年代で『回復する』が『悪化する』を上回った。

図表 18 アベノミクスによる今後の景気動向(年齢別)

(単位:%)

	回復に向かっていく	やや回復に向かっていく	横ばい	やや悪化する	悪化する
20歳代 【n=200】	1.0	25.5	51.5	14.5	7.5
30歳代 【n=200】	4.5	26.0	43.5	13.5	12.5
40歳代 【n=200】	4.0	30.0	41.0	16.5	8.5
50歳代 【n=200】	2.5	27.0	43.0	19.5	8.0
60歳以上 【n=200】	4.5	24.5	37.5	20.0	13.5

(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

③ 職業別

職業別には、「自営業」を除くすべての職業で「横ばい」が最も多く、回答に占める割合が最も高かった「パート・アルバイト」では51.2%と半数を占めた。「自営業」で最も回答が多かったのは、「やや悪化する」で37.5%に上った。

『回復する』の方が『悪化する』よりも多かったのは（『回復する』：『悪化する』）、「会社勤務」（31.6%：26.9%）、「公務員・教職員・非営利団体職員」（36.3%：20.4%）、「専業主婦」（29.6%：21.9%）、「学生」（33.3%：19.5%）であった。

『悪化する』の方が『回復する』よりも多かったのは、「自営業」（23.0%：47.9%）、「無職」（29.3%：32.8%）であった。

『回復する』と『悪化する』が拮抗したのは「パート・アルバイト」（24.4%：24.4%）であった。

図表 19 アベノミクスによる今後の景気動向(職業別)

(単位：%)

	回復に向かっている	やや回復に向かっている	横ばい	やや悪化する	悪化する
会社勤務 【n=379】	3.4	28.2	41.4	16.6	10.3
自営業 【n=48】	4.2	18.8	29.2	37.5	10.4
パート・アルバイト 【n=127】	1.6	22.8	51.2	14.2	10.2
公務員・教職員・非営利団体職員 【n=44】	6.8	29.5	43.2	13.6	6.8
専業主婦 【n=229】	1.7	27.9	48.5	14.0	7.9
学生 【n=36】	0.0	33.3	47.2	16.7	2.8
無職 【n=116】	6.0	23.3	37.9	18.1	14.7
その他 【n=21】	9.5	23.8	28.6	19.0	19.0

(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

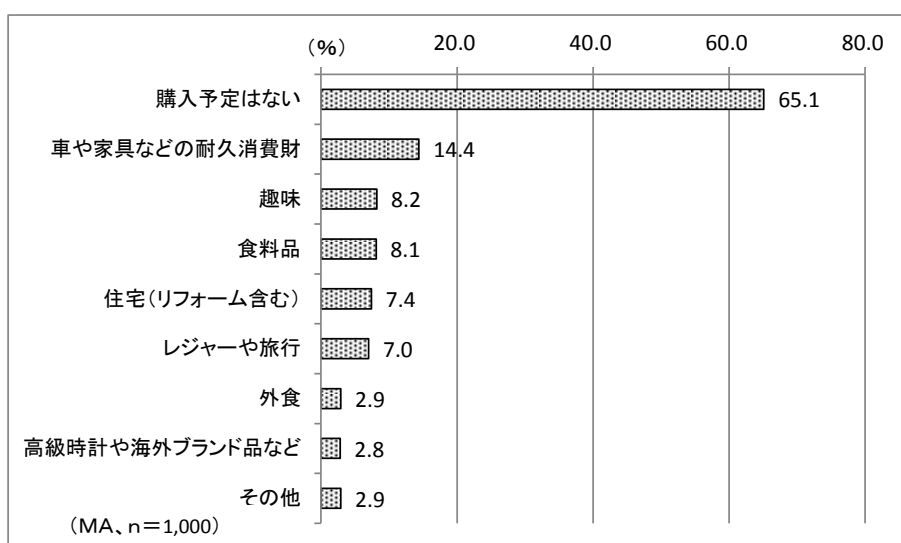
(3) 消費増税に関する調査

1) 消費増税前の商品・サービスの駆け込み購入の状況

① 全体

2014年4月の消費増税を意識して増税前に購入したもの（14年3月までの予定を含む）をみると、「購入予定はない」（65.1%）が突出して多かった。次いで、「車や家具などの耐久消費財」（14.4%）、「趣味」（8.2%）、「食料品」（8.1%）の順であった。

図表 20 消費増税前の駆け込み購入の状況(全体)【複数回答】



② 年齢別

年齢別には、すべての年代で「購入予定はない」が6割以上となり突出して多く、回答に占める割合が最も高かったのは「60歳以上」の70.0%だった。

次いで多かったのは、20歳代では「趣味」（14.0%）、それ以外の世代では「車や家具などの耐久消費財」（30歳代：15.0%、40歳代：17.0%、50歳代：18.0%、60歳以上：12.0%）だった。

図表 21 消費増税前の駆け込み購入の状況(年齢別)【複数回答】

(単位：%)

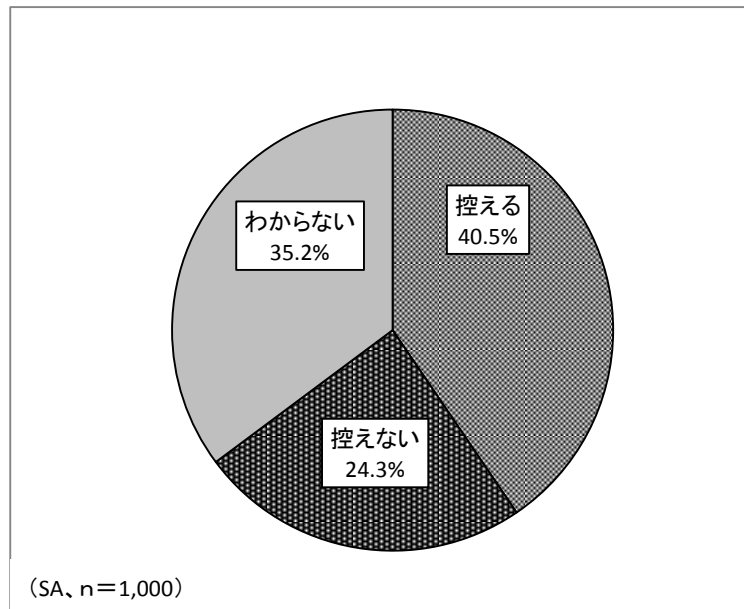
	住宅(リフォーム含む)	車や家具などの耐久消費財	高級時計や海外ブランド品など	レジャーや旅行	外食	趣味	食料品	購入予定はない	その他
20歳代 【n=200】	3.5	10.0	6.0	11.0	5.0	14.0	9.5	67.0	0.5
30歳代 【n=200】	8.0	15.0	1.0	6.0	3.5	8.5	7.0	62.5	4.5
40歳代 【n=200】	8.5	17.0	3.5	5.5	3.5	8.0	10.0	62.5	3.0
50歳代 【n=200】	9.5	18.0	2.5	4.5	1.5	5.0	7.5	63.5	3.0
60歳以上 【n=200】	7.5	12.0	1.0	8.0	1.0	5.5	6.5	70.0	3.5

(注) 網かけは各項目の最大値、斜線は次点。

2) 消費増税後の消費行動について

消費増税後の2014年4月以降の消費動向をみると、「控える」が40.5%で最も高く、「控えない」が24.3%、「わからない」が35.2%であった。

図表 22 消費増税後の消費動向について(全体)



以上